

令和7年度 墨田区立墨田中学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 小出 和正

学校教育目標	一人一人がwell-beingを実現しSociety5.0という新たな社会に向けて、人格と力量の修得のため、人権尊重の精神と社会貢献の精神を基調として、知育・徳育・体育の調和のある人間教育の具現化を目指し、次の教育目標を掲げる。 自ら学び 心豊かで たくましい
目指す学校像	(1) 生徒間、生徒と教師の心理的安全性が確保され、かつ誰一人取り残すことなく、生徒及び教師が笑顔で生活を送れる学校 (2) 自他の人権を尊重し、自己肯定感や自己有用感が育つ学校 (3) 成長の段階に応じて、授業や部活動等で心や体を育む学校 (4) 確かな学力を身に付け、自ら考え、主体的に行動する生徒を育成する学校 (5) 生徒のみならず、生徒・保護者・地域との信頼関係が築かれ、地域と共にある学校 (6) 働き方改革を推進し、教職員がやりがいもち健康的に働ける学校
目指す生徒像	(1) 友達と会える、勉強や部活動など切磋琢磨できるなど、明日も学校に通うのが楽しみな生徒 (2) 社会の一員としての自覚をもち、社会に貢献しようとする生徒 (3) 自ら考え判断し、時には協働的に取り組むなど、自ら学びに主体的に行動できる生徒 (4) 人権尊重の精神をもち、自分を大切にだけでなく、他者も大切に行動できる心豊かな生徒 (5) 心身ともに健康で、挑戦や粘り強く取り組む生徒
目指す教師像	(1) 全ての生徒の心に寄り添い、粘り強く支援・指導し続ける教師 (2) 生徒のみならず、保護者や地域とも信頼関係を率先して築き、よりよい学校、地域を築こうとする教師 (3) 組織の一員として学校経営に進んで参画する教師 (4) 探究心と向上心をもち、自己の資質・能力を高めるとともに、生徒のよさを引き出し、生徒の学力を伸ばせる教師 (5) ICT機器を生徒に活用させ、生徒の学びに向かう姿勢を育むとともに学力の向上が図れる教師

○令和7年度 学校経営計画における重点内容

- ・教師と生徒、生徒間との信頼関係の構築  
(ひいては認知能力、非認知能力の育成)
- ・主体的に行動する生徒の育成
- ・ユニバーサルデザインを基盤とし、デジタルを活用した豊かな学びの実現  
(デジタルとアナログの共存)
- ・特別支援教育の理解深化と実践
- ・不登校生徒(その傾向含む)や特性がある生徒への寄り添った支援
- ・保護者、地域との連携及び各活動の実施

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		評価	成果指標		評価	分析	改善方策	学校関係者評価					
											自己評価	改善方策	意見等			
各教科指導等	・学ぶ環境の確保	・授業を中心とし、関わりを通して信頼関係を構築する ・生徒の実態にあわせ、寄り添い、粘り強く支援にあたる ・4月9月1月を信頼関係構築重点期間として取り組む	4	(教職員アンケート) 生徒との信頼関係の構築に努めた	100%	4	4	(生徒アンケート) 学校生活が充実している	90%以上	4	教育活動において、教員が支援を重点的に取り組んできたからであると考え。授業では、UDLを基に「分かる楽しさ」や「協働的な学び」などに取り組んだことが充実につながったと考えられる。	学校生活の基盤となる人との関わりや支援を継続し、さらなる信頼関係の構築に取り組む。	A	A	・概ね確保されており、学校生活の充実につながっている。 ・一部でばらつきも感じられるため、継続した取組をお願いしたい。	
			3		90%以上		3		80%以上							
			2		80%以上		2		70%以上							
			1		80%未満		1		70%未満							
	・確かな学力の育成	・校内研究を活用した授業改善 ・墨中スタンダードの徹底 ※分かる授業 ※柔軟性ある授業 ※協働的な学び ・年2回相互授業参観の実施	4	(教職員アンケート) 校内研究等を活用し、授業改善に取り組んだ	90%以上	4	4	(調査結果) 区学習状況調査の平均正答率の観点、本校>全国	27/30以上	1	結果は22/30であった。成果指標は80%以上と高めに設定し、あと一步届かなかった。国・数・英は上位層が伸び、平均正答率を伸ばした。社・理は定着率の低い箇所が、教科全体の平均正答率を下げたと考える。	「学習ふりかえり期間」を活用し、理・社を中心に基礎事項の定着を図る。教科別の「ふりかえりシート」を単元内で複数回活用し、理解の定着と自己調整力の育成を促すことで底上げを図る。	A	A	・学力は着実に向上していると感じる。 ・自己調整力を育む取組は大切であり、今後も継続してほしい。 ・学習内容が多く、まとめきれない生徒へのケアにも引き続き努めてほしい。	
			3		80%以上		3		25/30以上							
			2		70%以上		2		24/30以上							
			1		70%未満		1		24/30未満							
	・生徒の主体性の育成	・学校経営方針を基にした教職員の環境づくり(生徒主体の○○) 生徒会朝礼、生徒会活動各行事及び実行委員 Qubena等を用いた家庭学習 学校生活の過ごし方	4	(教職員アンケート) 学校行事や生徒会活動等では、主体的な活動となるよう環境を整えたり支援したりしている	90%以上	4	4	(生徒アンケート) 主体的に様々な活動を行えた	90%以上	3	生徒アンケートは88.0%である。教職員は学年の段階に応じた「生徒の主体的な活動」に努めた。生徒会朝礼や行事などの活動が、生徒にとって実感を伴う経験となり、主体性の育成につながったと考えられる。	クラスの行事や活動において、自己の取組を客観的に振り返る機会をできるだけその日に設定し、その取組を継続する。	A	A	・主体性を育む取組はよい。実感を伴った経験につながっている。 ・行事において同じ生徒が活躍する場面が見受けられるため、多くの生徒が関わるとさらに良い。	
			3		80%以上		3		80%以上							
			2		70%以上		2		70%以上							
			1		70%未満		1		70%未満							
生活指導等	・不登校生徒の家庭と学校内または外部機関とのつながりが必ずある	・特別支援教育委員会及び不登校対策委員会を中心とした組織的な対応 ・SSW等外部機関との連携	4	(教職員、SCアンケート) 学校は、不登校生徒(傾向も含む)や家庭に対して、丁寧な働きかけをしている	90%以上	4	4	(年度末) 学校内や外部機関とつながりがとれていない家庭の件数	2件以内	4	教職員は授業の合間や放課後に、家庭への電話連絡や時には家庭訪問を行うなど、家庭に対して丁寧な働きかけをしている。これにより、支援の基盤が形成されていると考える。	現状の成果を維持するためにも、次年度も本取組を引き継ぐ体制を整え、確実に実行する。	A	A	・現在の丁寧な支援は良い取組であり、心配はないと感じる。 ・時には「足りなかった」という視点も必要だと思う。 ・必要に応じて、民生児童委員も協力します。	
			3		80%以上		3		3件以内							
			2		70%以上		2		4件以内							
			1		70%未満		1		4件以上							
	・不登校生徒の出現率減少	・特別支援教育委員会及び不登校対策委員会を中心とした組織的な対応 ・学年教員等とSSR担当者との連携 ・墨中不登校フローの実施及び改善	・特別支援教育委員会及び不登校対策委員会を中心とした組織的な対応 ・学年教員等とSSR担当者との連携 ・墨中不登校フローの実施及び改善	4	(教職員、SC、SSRアンケート) 学校は、不登校生徒(傾向も含む)や家庭に対して、丁寧な働きかけをしている	90%以上	4	4	(年度末) 不登校生徒の出現率 項目：不登校 欠席理由：不登校	6%未満	4	出現率は例年と比べて低い。要因として、各委員会で生徒及びその家庭に応じた支援を協議し、家庭に寄り添った連携を重視した組織的な支援を行ったことが挙げられる。	不登校の状況は生徒により異なるため、個に応じた支援と継続的な関わりを重視し、「社会とつながる」を大切に取組を進める。	A	A	・先生方の日々の努力の結果が表れている感じる。 ・教員対応し大変だと思う。先生方に負担がかかっている点が心配であり、必要に応じて民生児童委員も協力します。
				3		80%以上		3		7%未満						
				2		70%以上		2		7.8%未満						
				1		70%未満		1		7.8%以上						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価					
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等			
生活指導等	・危機回避能力の育成	・避難訓練（年11回）及び安全指導（年11回）の実施 ・授業や行事、登下校時などの熱中症対策 ・第2学年 防災士による講演会や避難所テント設置等の防災教育の実施	4	（教職員アンケート） 避難訓練及び安全指導を計画的に実施した ※（新規）不審者対応訓練	100%	4	（保護者アンケート） 災害に対する知識や災害時に自分の安全を守るための対処の仕方などを身に付けさせている	90%以上	3	保護者アンケートは87.7%である。不審者対応訓練やシェイクアウト訓練を計画的に実施できた。9月の避難訓練では、暑さ対策として集団下校訓練に変更したことも、安全対策の一因となった。	地震災害の実際を踏まえ、実践的な防災教育を参考にした「震度5弱以上の災害を想定した避難訓練」を、新たに年間で2回程度取り入れる。	A	A	・計画的であり、良い取組である。 ・避難所としての役割（担い手）も見据え、今後も継続して取り組んでほしい。 ・地域、行政、学校の連携がさらに深まるとありがたい。
	3	90%以上	80%以上		70%以上			70%未満						
2	80%以上	80%以上	70%以上		70%未満									
1	80%未満	80%以上	70%以上		70%未満									
・安全・安心な日常を送るための意識の向上	・地域人材等と連携した特別授業の実施 *セーフティ教室 *薬物乱用防止教室 *交通安全教室	4	（教職員アンケート） 学校は、事件や事故を未然に防ぐために、具体的な取り組みの充実に努めている	90%以上	4	（生徒アンケート） 犯罪被害や交通事故を防止するための学習に取り組んでいる	90%以上	4	計画的にセーフティ教室など特別授業を実施した。交通安全教室では、スクエアドストリート方式を実施し、自転車運転時の啓発を行えた。さらに、不審者対応を適切に行ったことも、生徒の安全意識向上の一助となった。	本校から被害生徒・加害生徒を出さないため、計画的に特別授業を実施するとともに、月1回の安全指導を確実に実施し、生徒の安全意識を高める啓発活動を継続する。	A	A	・生徒と地域の人と関わる機会がもう少し増えると良い。 ・生徒の安全意識の向上につながっている。 ・道路交通法が改正するので、生徒に対して自転車の指導に力を入れるとよい。	
3	80%以上	80%以上		70%以上			70%未満							
2	70%以上	80%以上		70%以上			70%未満							
1	70%未満	80%以上		70%以上			70%未満							
学校の管理運営	・学校経営方針に基づいた教育活動の実施	・提案前の分掌等での協議 ・企画調整会議（週1回）の実施 ・PTAや地域との事前打ち合わせ ・生徒の主体的な活動	4	（教職員アンケート） 教職員は使命感をもち努めており、学校の教育活動は充実している	90%以上	4	（生徒アンケート） 学校生活は満足していますか	90%以上	4	教職員が「生徒の主体的な活動」や「教職員による生徒への支援」など学校経営方針を理解し、意図的・計画的・組織的に取り組んだ結果である。	生徒が「学校生活は満足している」や「教職員による生徒への支援」など学校経営方針の理解を深め、意図的・計画的・組織的な取組を次年度も継続して努める。	A	A	・生徒の満足度が高いのは、学校の努力の結果だと思います。 ・一部で授業や特定の先生が苦手という声も聞きます。
	3	80%以上	80%以上		70%以上			70%未満						
	2	70%以上	80%以上		70%以上			70%未満						
	1	70%未満	80%以上		70%以上			70%未満						
・サービス事故0件	・サービス事故防止研修及びサービス事故防止啓発の実施 ※都区等の資料を用いる ※事例を用いる ※他者との意見交換を行う ※管理職等の講話	4	（日常の取組） 定期的なサービス事故防止研修のみならず、職員朝礼等事例を基にしたサービス事故防止啓発を行っている	100%	4	（教職員アンケート） 学校は、日頃から組織的にサービス事故防止に努めている	100%	4	サービス事故防止月間での研修に加え、直近の報道については職員朝礼や職員会議等を活用し、日常的にサービス事故防止について啓発に努めた。	本校からサービス事故者を出さないため、定期的な研修にとどまらず、具体的な事例や直近の事故を取り上げ、職員の意識を高める啓発を継続する。	A	A	・良い取組である。サービス事故0件を継続してください。	
3	100%未満	100%未満		100%未満			100%未満							
2	100%未満	100%未満		100%未満			100%未満							
1	100%未満	100%未満		100%未満			100%未満							
・適切な教育環境の整備	・教員及び管理員等による日常的な点検、整備 ・庶務課等と連携した環境整備	4	（教職員・管理員アンケート） 日常的に教室環境の整備、美化に努めている	100%	4	（保護者アンケート） 学校は環境美化に努めている	90%以上	4	日々施設の環境美化に努め、異状の際は、迅速な修繕を行った。夏には空調工事（3・2・1階）を行った。また、電話の不具合が生じ、迅速に対応した。保護者や地域に状況を説明し理解をいただけたことと考える。	快適で安全な学習環境を維持するため、区教育委員会と連携し、引き続き、学校全体で適切な教育環境の整備に努める。	A	A	・いつ学校を訪問してもきれいに掃除がされるなど環境が整っており、気持ちよく生活できると思います。 ・快適、安全な環境整備は大変だと思うが、今後も継続してほしい。	
3	90%以上	80%以上		70%以上			70%未満							
2	80%以上	80%以上		70%以上			70%未満							
1	80%未満	80%以上		70%以上			70%未満							
家庭・地域連携	・墨田中は、通わせたい学校である	・いじめ未然防止の実施 ・いじめが起きた際の早期対応、早期解決 ・教師は生徒の思いや考えを受け止める ・分かりやすい授業の実施 ・生徒主体による活動の支援	4	（教職員アンケート） 教職員は使命感をもち努めており、学校の教育活動は充実している	90%以上	4	（保護者アンケート） 安心して通わせることができる学校である	90%以上	4	通年で、いじめの未然防止・早期発見や個に応じた支援の充実に努めた。また、生活アンケート等を定期的実施した。保護者への電話やCOCOO等での連絡、学校公開等を通じて取組を理解をいただけたことと考える。	生徒が安心して生活を送れる環境を維持するため、教員の組織的かつ意図的な対応が重要である。生徒の変化を感じとり、些細な兆候も見逃さないように努め、迅速かつ丁寧な対応を図る。	A	A	・年々墨田中学校がよくなくなってきていると感じ、大変喜ばしく受け止めております。 ・いじめに熱心に取り組んでおり評価できる。 ・良い評判を耳にします。
	3	80%以上	80%以上		70%以上			70%未満						
	2	70%以上	80%以上		70%以上			70%未満						
	1	70%未満	80%以上		70%以上			70%未満						
・学校の教育活動等の理解	・各種たよりの発行 学校だより、学年だより 給食だより、保健だより ・学校HPの定期的な更新 ・COCOOの活用 ・学校運例連絡協議会、PTA役員会等での報告・連絡・相談	4	（教職員アンケート） 学校は様々な方法で教育活動を発信している	90%以上	4	（保護者アンケート） 学校は様々な方法で教育活動を発信している	90%以上	3	保護者アンケートは89.3%である。ペーパーレス化の推進により、発信の手段はデジタルが中心である。一方、受け手側は多くの情報を受け取るため、情報が埋もることが考えられる。	保護者や地域が学校の情報をタイムリーに確認できるように、発信の手段はデジタルが中心である。一方、受け手側は多くの情報を受け取るため、情報が埋もることが考えられる。	A	A	・地域への学校だよりの配布を増やすとよい。 ・紙媒体での情報提供も時には必要だと感じる。 ・保護者への情報発信を強化していただくと、保護者の理解も深まると思います。	
3	80%以上	80%以上		70%以上			70%未満							
2	70%以上	80%以上		70%以上			70%未満							
1	70%未満	80%以上		70%以上			70%未満							
・地域と連携した子どもの育成	・育成委員会、各町会との連携 ・墨中地区盆踊りの実施 ・祭礼パトロールの参加 ・すみだまつりへの参加 ・ハートフルコンサートの実施 ・墨田区総合防災訓練への参加	4	（教職員アンケート） 学校とPTA、学校と地域との連携は円滑に行っている	90%以上	4	（地域アンケート） 学校と地域との連携は円滑に行っている	90%以上	4	学校と地域との十分なコミュニケーションが図られ、教職員も各活動に参加するなど、協働した活動が円滑に実施できた。	地域との連携なくして、様々な本活動は成り立たない。引き続き、地域との連携を深め、子どもを共に育てる協働的な活動の充実に努める。	A	A	・中学生の祭りへの参加が増えると、地域としてうれしい。 ・今後も連携を深めたい。 ・コロナ以降、地域と共に行う行事が減っているように感じる。	
3	80%以上	80%以上		70%以上			70%未満							
2	70%以上	80%以上		70%以上			70%未満							
1	70%未満	80%以上		70%以上			70%未満							

※ [ ] の部分は、表を見やすくするためにあえて色づけしています

○令和7年度 学校経営報告のまとめ（総括）  
 ・生徒アンケートでは「中学校生活を送りやすい場所である（92.4%）」「学校の教育活動は充実している（92.4%）」の評価であった。研究を通じた教職員の授業改善や生徒・保護者との関わり、特別支援教育への理解を深めたことによる支援の充実などを中心に、学校全体で取り組んだ結果と考える。今後も落ち着いた学校生活を基盤に、「生徒の主体的な活動」を重視するとともに、地域・社会との連携を継続・強化し、地域に開かれた学校づくりを推進する。